

## 彼岸花街道



みつながやすゆき  
光永保行さん(寺中)

寺中地区を流れる木山川の河川敷に植えられている彼岸花。9月中々下旬頃に見頃を迎えます。1・6キロにわたり咲き誇るさまは、まるで赤いじゅうたんのようにです。この河川敷は、今では「彼岸花街道」と呼ばれています。

この彼岸花街道を管理している光永さんは、「20年前、県道熊本高森線から木山川河川敷の道路を見た時に、自転車通学している子どもたちの肩から上しか見えないほど雑草が生い茂っていて、この道は車も通るので危険だと感じました。そこで、ボランティアで草刈りをしていたところ、散歩中に通りがかった人が『草刈りをするだけではなく花を植えてみたら、咲くのを楽しみに今後も草刈りが続けられるのでは』と、アドバイスしてくれたのが彼岸花街道の始まりです」と、花を植えたきっかけを話してくれました。

それ以来、妻の由美子さんと共



に、6年かけて除草作業と花の植え付けを行いました。そのかいがあり、今では植えなくても毎年花を咲かせるようになりましたが、そのためには年に5〜6回の除草作業が必要です。光永さんは、「自分でもよく20年続いたと思います。通学中の学生や散歩している人が、通りがかりに『お疲れさま』と言ってくれることが励みになりました」と話しました。

「彼岸花で秋の訪れを感じてほしい」と光永さん。今後については、「もう74歳なのでいつまでできるかはわからないが、これからも体力が続く限り続けていきたい」と決意を話してくれました。

## ヒマワリ畑



おおむらこうせい  
大村幸誠さん(下小谷)

県道36号熊本益城大津線(第二空港線)沿いに、今年の8月上旬、突然現れたヒマワリ畑。宣伝していないにもかかわらず、多くの人が訪れていました。

植えたのは、下小谷の大村さん。「初めは、畑のあぜに1〜2列程度植えるつもりでした。しかし、どうせ植えるならみんなに喜んでほしいと思い、約1万平方メートルの畑全面に植えました」と大村さん。その願い通りに、訪れた人たちは、辺り一面を埋め尽くすヒマワリに驚くとともに、笑顔になっていました。

車で100台以上の訪問者がいたそうで、「SNSで広まったのではないかと思います。ヒマワリ畑を見た知り合いから『元気づけられた』と言ってもらえたのはうれしかった」と話してくれました。

大村さんは、来年以降も同じように植えたいと考えており、予想以上に今

年の訪問者数が多かったため、駐車スペースを増やすことも検討しているそうです。「このヒマワリ畑は、仕事としてしているわけではないので、ふらっと見に来て、ふらっと帰ってもらって構いません。交通ルールとマナーを守った上で、ぜひ見に来てください」と笑顔を見せました。



えた人  
お話を  
した